田中美奈子先生　追悼号に寄せて

社会福祉学科　学科長　木　村　愛　子

In Memory of Associate Professor MINAKO TANAKA

Aiko Kimura

田中美奈子先生が亡くなられてから、もう十か月近くが過ぎてしまいました。日々の仕事に追われて過ごしながらも、ふと、在りし日の先生のお姿や柔和な笑顔が瞼に浮かび、懐かしく、また寂しくなります。

先生は、日本女子大学社会福祉学科をご卒業後、大学付属家庭福祉センター「みどりの家」の指導員となられ、27年もの間、集い来る子供たちを温かく指導されました。教え子たちやその両親方から、先生がどんなに敬愛されておられたかということを、私は、先生のご葬儀の折にあらためて教えられ、大変感動いたしました。

先生は、社会福祉学科のスタッフになられてから、もっぱら、学生の実習指導にお力を入れて下さいました。丁度その頃、児童福祉の分野に関心を持つ学生が急増し、新しい実習先の開拓が課題となっておりました。このことに先生は一生懸命取り組んでくださり、そのご尽力のおかげで、今日学生たちは、社会福祉士の国家資格取得に必要な勉強を、これらの諸施設でさせて頂いております。学科といたしまして、大変感謝しております。

このような実践活動の中で、先生は絶えず実践の理論化を志向され、「日常処遇の専門性」、「学童保育に関わる父母組織と地域活動」などの優れた研究業績を残されました。先生は、「研究のために実践するのではなく、良い実践が良い研究を生む」という信念を一貫して持っておられたと伺いました。社会福祉学の研究を志す人々にとって、先生のこの研究姿勢から学ぶべきところは、極めて大きいものと思います。専門分野が離れておりましたため、私は同じ学科で働きながらも、先生の研究者としての側面に触れる機会が十分にありませんでした。そのことを、今となっては、大変残念に思っております。

重篤な病床に伏されてからも、先生は「生き抜く」という強い意志を示され、厳しい治療に耐えられました。どんなにかお辛かったことでしょう。どうか平安にお眠りください。

1999年2月22日記